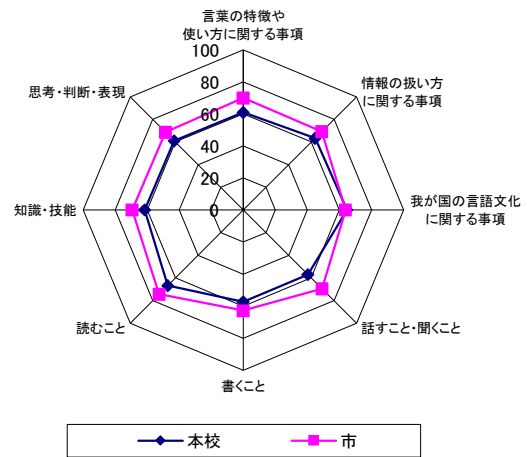


宇都宮市立平石北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	61.0	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	63.2	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	64.7	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	56.9	69.5	71.5
	書くこと	57.4	62.8	67.1
	読むこと	66.7	74.4	73.7
観点別	知識・技能	61.6	69.4	71.9
	思考・判断・表現	61.0	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

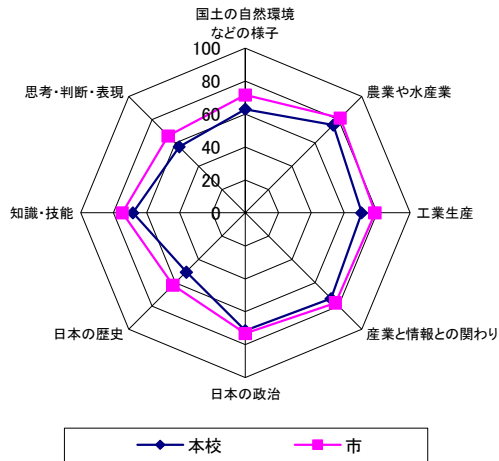
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	・正答率は、市平均より8.9ポイント下回っている。 ○「文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている。」の問題では市平均より11.1ポイント上回っている。 ○「敬語について理解し、正しく使っている。」の問題では、市平均と同程度だった。 ●5学年、6学年配当漢字を正しく読むことはできるが、正しく書くことには、個人差が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・相手に応じた敬語の使い方や、配慮ある話し方について今後も指導していく。 ・漢字を正確に読み書きできるように、朝の学習やミニテスト、家庭学習において既習学習の習得を図る。
情報の扱い方 に関する事項	・正答率は、市平均より6.0ポイント下回っている。 ○「目的や意図に応じて、書き方を工夫している。」の問題では、市と同程度だった。 ●「情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理している。」の問題では、市平均より7.3ポイント下回っている。 ●「情報と情報の関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている。」の問題では、市平均より4.6ポイント下回っている。	・文章に書いてある情報を整理するような課題の取り組み方についての指導を充実させる。 ・伝えたいことを確認しながら、文を書いたり、読んだりする指導の充実を図る。
我が国の言語文化 に関する事項	・正答率は、市平均より0.9ポイント上回っている。 ○「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している。」の問題では、市平均と同程度だった。	・今後も漢字の成り立ちについて部首やつくりのはたらきを正しく理解できるように、例などを提示して、授業の中で随時取り入れる。
話すこと・聞くこと	・正答率は、市平均より12.6ポイント下回っている。 ●「意図に応じて、質問を工夫している。」の問題では、市平均より13.3ポイント下回っている。 ●「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。」の問題では、市平均より16.1ポイント下回っている。	・学級活動等で、一つのテーマについて話し合う機会を設けることで、話の重要なポイントを聞き取れるように指導していく。
書くこと	・正答率は、市平均より5.4ポイント下回っている。 ●「指定された長さで文章を書いている。」の問題では、市平均より6.4ポイント下回っている。 ●「自分の意見とその理由を明確にして書いている。」の問題では、市平均より4.8ポイント下回っている。	・行事ごとに、気付いたことや感じたことを作文する機会を設ける。 ・テーマや文章の長さを設定し、条件に即して文章を書く力の定着を図る。 ・自分の意見と事実を区別することを意識することができるように指導し、文を書く力の定着を図る。 ・他教科においても、必要な情報を集め、まとめる活動を取り入れる。
読むこと	・正答率は、市平均より7.7ポイント下回っている。 ●「登場人物の心情について、描写を基に捉えている。」の問題では、市平均より10.6ポイント下回っている。 ●「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。」の問題では、市平均より11.1ポイント下回っている。	・物語の読み取りについては、内容をどう読み取るのか、文章から重要な言葉をどのように見つけたらいいのかということを指導していく。 ・日頃から新聞記事や、図書などを授業の中で活用し、必要な情報を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする学習を意図的に取り入れる。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	62.9	71.6	67.5
	農業や水産業	75.5	81.5	82.1
	工業生産	70.6	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	73.5	77.2	68.2
	日本の政治	71.3	73.1	77.9
	日本の歴史	50.7	62.0	65.8
観点別	知識・技能	68.2	74.6	74.5
	思考・判断・表現	56.8	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

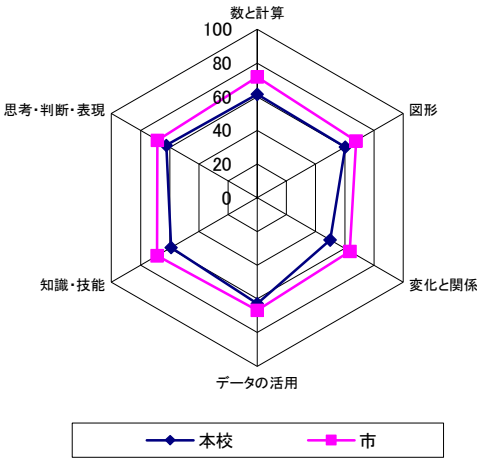
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・正答率は、宇都宮市の平均を8.7ポイント下回っている。 ●日本の周辺の海洋名についての理解や韓国の国旗と位置についての理解が市の平均正答率より約10ポイント下回っている。	・世界の主な大陸や海洋との関係で日本の位置などを確認し、世界の中での日本を捉えさせるようにする。 ・各国の位置について確認させ、世界の主な国々の広がりや日本との位置関係を捉えさせる。
農業や水産業	・正答率は、宇都宮市の平均を6.0ポイント下回っている。 ○カントリーエレベーターについての理解は市の平均正答率とほぼ同じであった。 ●地産地消の取り組みの理解が市の平均正答率より11.9ポイント下回っている。資料を適切に読み取り、課題解決につなげる力に課題がみられる。	・知識と結びつけて資料を読み取り、課題解決に結びつける力に課題がみられる。資料から何が読み取れるか自由に話し合う時間を確保し、自分なりの気付きをもたせるようにする。 ・キーワードのカードを渡したり、黒板に示したりすることや、ある程度の文型を示したりするなど、表現の仕方をサポートする。
工業生産	・正答率は、宇都宮市の平均を8.1ポイント下回っている。 ●自動車工場の作業工程の理解、日本の輸出品の資料の読み取りについては市の平均正答率より約7ポイント下回っている。 ●自動車の出荷の工夫を捉え表現する問題では、市の平均正答率より9.3ポイント下回っている。	・教科書の資料や文章から情報を読み取らせる際に、特に重要だと思う箇所に線や印をつけさせるなどして、資料を活用する力を身に付けさせる。 ・一つ一つの資料から、それぞれ何が分かるのかを明確にし、まとめていく活動を多く取り入れる。
産業と情報との関わり	・正答率は、宇都宮市の平均を3.7ポイント下回っている。 ○メディアの特徴の理解や防波堤の設備についての理解は、市の平均正答率とほぼ同じであった。 ●資料に着目し表現する問題では、コンビニエンスストアの発注システムを捉える問題では9.9ポイント、森林の働きを捉える問題では18.3ポイント市の平均正答率より下回っている。	・知らない言葉や疑問の説明や解説を教師が行ったり既習事項を振り返らせ、共通点や違いに気付かせるようにし、理解を助けるようにする。 ・資料からどのような情報を得て、どう活用していくかについて、教師とともに考え、まとめていく活動を多く取り入れる。
日本の政治	・正答率は、宇都宮市の平均を1.8ポイント下回っている。 ○日本国憲法についての理解や図に着目しての政治の仕組みの判断は、市の平均正答率とほぼ同じであった。 ●税金についての理解については、市の平均正答率より10.2ポイント下回っている。	・政治を身近なものとして感じられるように、資料集やデジタル教材を有効活用し、学習内容の理解に役立てる。 ・資料の読み取り等を通して、基礎的事項を習得させ、現状と解決策について話し合うとともに、自分なりの考えがもてるようにする。
日本の歴史	・正答率は、宇都宮市の平均を11.3ポイント下回っている。 ●鎌倉幕府が置かれた場所の資料の読み取りでは、市の平均正答率より23.6ポイント下回っている。 ●豊臣秀吉の政策の共通点を判断する問題では18.7ポイント、江戸幕府の大名支配についての適切な見出しを判断する問題では16.7ポイント、市の平均正答率より下回っている。	・既習内容をノートで振り返り、ポイントとなるキーワード等にマーカーを引くなど着目させることで、考えやすくできるようにする。 ・一つ一つの資料の読み取りの際に、その資料を読み取る観点を示し、具体的にとらえられるようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	61.5	71.8	76.2
	図形	60.3	67.7	67.8
	変化と関係	50.0	63.4	62.7
	データの活用	62.7	66.7	61.5
観点別	知識・技能	59.1	68.6	70.7
	思考・判断・表現	62.4	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

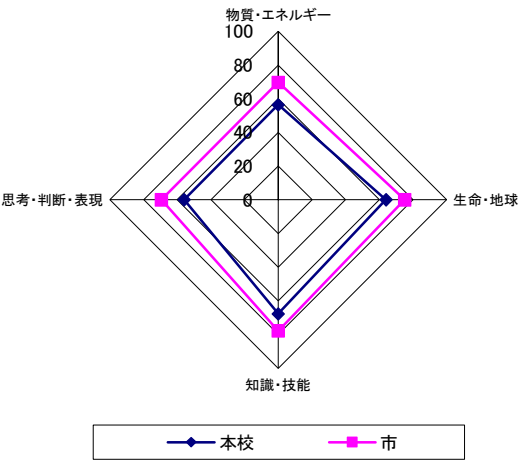
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は市の平均よりも10.3ポイント下回っている。 ○「図を見て、小数倍の文章問題(何倍かを求める)を解くために除法の立式をしている」の問題では、正答率が市の平均より1.6ポイント上回っている。 ●「真分数+真分数=仮分数で分母どうしをかける通分する計算」の問題では、市の平均を25.3ポイントを下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・図を見て問題の場面を考えたり、式を導き出したりする問題に苦手意識を持つ児童が多い。読解力を高める為に図式化する問題に取り組む機会を増やす。また、図と式を関係付けて考えるなどの思考力向上に努める。 ・授業において、文章から数量の関係を数直線に書き表すことを繰り返し取り組ませ、図と式を関連付けた思考ができるようにする。 ・分数の加法や減法、通分の仕方などの基本的な計算の定着に向けた練習を継続して行っていく。
図形	・平均正答率は市の平均よりも7.4ポイント下回っている。 ●「円と四角形を組み合わせた図形の面積の求め方から、どの図形の面積を求めたのかを選んでいる」の問題では、正答率が市の平均を14.8ポイント下回っている。 ○「2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求めることができる」の問題では、正答率が市の平均と同程度であった。	・図形を構成する要素や図形の合成や分解について視覚的に捉えられるように、日頃から形に注目した活動を授業の中に取り組み。 ・授業の導入に、既習内容の確認を十分に行い、本時の活動に取り組むような、授業展開の工夫を行う。
変化と関係	・平均正答率は市の平均よりも13.4ポイント下回っている。 ●「図から面積と数の割合を求め、どのうさぎ小屋が最も混んでいるかを考察している」の問題において、市の平均を15.3ポイント下回っている。	・単位量あたりの大きさ・速さについて、図から面積と数の割合を求めたり、混み具合を考察したりする応用的な問題を苦手とする児童が多く見られた。習熟度別学習においては、十分に基礎を身に付けられた児童には、応用問題を積極的に取り組ませるようにすることで、基礎のさらなる定着と応用力を身に付けさせる。 ・割合は私たちの身近な生活の中で用いられていることを理解させると共に、基準量と比較量から割合を求める問題など、様々な問題に数多く取り組む機会を増やす。
データの活用	・平均正答率は市の平均よりも4.0ポイント下回っている。 ○「ドットプロットから、中央値を読み取る」の問題において、4.0ポイント上回っている。 ○「ヒストグラムを正しく読み取る」の問題において、市の平均を0.6ポイント上回っている。 ●「帯グラフを読み取って、説明している」の問題において、市の平均を16.9ポイント下回っている。	・日頃からグラフの多様な問題演習に取り組み、折れ線グラフ、棒グラフ、帯グラフ等の資料から、その値が何を示しているのかを読み取る力を身につけさせる。 ・他教科の教材や実際の資料を活用することで、児童の関心を高め、多面的なデータの読み取りができるようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	56.5	69.9	67.8
	生命・地球	63.9	75.1	73.7
観点別	知識・技能	67.6	77.8	78.4
	思考・判断・表現	55.9	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・平均正答率は、市の平均よりも13.4ポイント下回った。 ○「電流の働き」の電磁石が引きつけるクリップの個数について、正しいものを指摘する問題では、正答率が82.4%で市の平均を2.7ポイント上回った。 ●「電流のはたらき」の電流の強さと電磁石のはたらきの関係を調べるためには、どの実験を比較すればよいかを問う内容では、正答率が38.2%で市の平均を18.6ポイント下回った。 ●「水溶液の性質」のアルミニウムと塩酸が反応してできたものとアルミニウムを区別する方法を推測する問題では、正答率が44.1%で市の平均を34ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ○「電流の働き」の電磁石の実験結果から基礎的な知識を問う内容では正答率が高いことから、児童は関心をもって実験等理科の学習に臨めているように思われる。 ・実験の比較や推測する発問に対応するために、実験結果を正しく理解し深く考察できるように、まとめの時間を丁寧に行うようにする。また、AI型学習ドリル等を活用して、学習内容の定着と様々な発問に慣れるようにする。
生命・地球	・平均正答率は、市の平均よりも11.2ポイント下回っている。 ○「植物と発芽と成長」の予想が正しかった場合に得られる結果を推測する問題では、正答率が67.6%で市の平均を4.4ポイント上回った。 ●「植物と発芽と成長」の実験の操作を改善することを問う内容では、正答率が41.2%で市の平均を21.8ポイント下回った。 ●「動物の体のつくりと働き」の実験の結果から呼吸の働きを記述する問題では、正答率が50%で市の平均を26.2ポイント下回った。 ●「生物の環境」の食物連鎖について理解しているかを問う内容では、正答率が55.9%で市の平均を30.6ポイント下回り、アイガモ農法は食物連鎖を利用して稲の成長を助けていることを記述する問題では、正答率が32.4%で市の平均を24.2ポイント下回った。	・「植物と発芽と成長」の予想から観察を行った結果を推測する問題の正答率が高いことから、観察や実験を通して学んだことを理解しているように思われる。 ・観察や実験の結果から、結果を比較したり考察したりできるように、科学的な思考力を高める活動を充実させるようにする。 ・自然界において、生物同士が相互関係を持ちながら生活する例や、食物連鎖を生かした農法などについて、教師が示したり、児童に調べさせたりすることで、食物連鎖についての理解を深めさせる。